

自社製設備、国内製にこだわる 日本屈指の綿棒メーカー 世界初の工業用綿棒を開発

海外発注可 納期相談 企画力自信有 コスト相談 オフライン技術 メディカルジャパン 試作可小ロット 産地対応



耳かきと合体した綿棒、大阪弁のおみくじや東北弁が楽しめる綿棒等、独創的商品の数々

業界初のハイテク綿棒で 世界シェアを達成 次世代綿棒で世界一を狙う

山洋は日本トップクラスの綿棒メーカーとして、年間50億本もの生産量を誇るリーディングカンパニーだ。家庭用、医療用工業用と展開する綿棒はすべて国内で生産され、品質と安全性を維持する。衛生面への配慮から一貫して人の手に触れない自動生産ラインを持ち、短納期、低コストを実現。ユザウのニーズを形にするために綿棒・綿球製造機、軸削り機等、機械の開発、設計、組立まで自社内で行う。

中でもパソコンや携帯電話、薄型テレビ等、精密機器の製造工程で使われる工業用綿棒「HUBY」は世界シェアを獲得する。先端形状を自在に変えられるという業界初の技術を駆使し、ミクロを追求する極小サイズ、半導体に悪影響をおよぼす融解物質を出さない等、厳しい基準をクリア。コットンの膨張、毛羽立ちを防ぎつつ優れた吸水性を誇るハイテク綿棒だ。本来化粧用品用に開発した商品を業務用として保証できる精度まで高めたところ、発売当初は世界で95%ものシェアを握った。

同社では世界初、世界一を目標に既存の概念を覆すような新商品を次々と考案。生産機械の開発に着手し、今後は商品化を予定。先端分野で活躍する次世代綿棒の登場に期待がかかる。

綿棒の定番、丸筒容器から 軸棒印刷まで新発想で創造 世界に誇る日本製綿棒

海外は、日本ほど綿棒に精度を求めない。だが同社は、「お客様に喜んでいただけるものづくり」をめざし、「50億本



同社独自の技術で軸への印刷が可能。フルカラー、高画質と高いクオリティーを誇る

分のゼロ」を合い言葉にクレームゼロ運動を実施。生半可な覚悟では達成できない厳しい品質管理を徹底する。また二度粉砕した微量の綿を、糊をつけた軸に巻き取り成形しながら接着剤で固める独自の技術は、同社の強みだ。

家庭用綿棒の基本形として定着した丸筒容器は中谷社長が考案し、世界で初めて商品化されたもの。他社製品との明確な差別化を遂げた軸棒印刷技術も同社の発明だ。さらに消費者の多様なニーズに対応するため、綿棒以外に糊、樹脂、合成繊維、特殊繊維等、あらゆる材料とその加工技術の研究に尽力し、新製品の開発に取り組んでいる。

当初、海外での販売は工業用綿棒に限定したが、綿球が軸に均一に巻き付く同社の綿棒は海外でも高く評価され、一般用綿棒の海外進出も計画。平成21年5月、ベトナムに新工場を建設した。

より多くの人が喜び合える企業にするという理念を掲げる中谷社長は、「日本としてものづくりを大切にしたい」と語る。世界に誇る技術の流出を防ぎ、マーケティング、商品開発、販売促進に知恵を働かせれば、日本の製造業界はまだまだ成長できるのだ。

Company Profile

株式会社山洋

ISO 9001



住所 〒584-0022
富田林市中野町東2-2-6
TEL 0721-24-3376
FAX 0721-24-9145
創業 昭和42年4月
資本金 6,000万円
従業員 145名
代表取締役 中谷 洋

■主な事業内容
綿棒・綿球の製造、販売 等

■主な取引先
医療品メーカー、大型ショッピングセンター、全国のスーパー・ドラッグストア 等

<http://www.sa-n-yo.co.jp>

他社には
負けない

当社のもづくり
セールスポイント



ものづくりに対する熱い思いが
ヒット商品を生み出す動力源に

代表取締役 中谷 洋さん

開発の原動力となっているのは作り手の情熱です。創業以前に先代が手掛けた「こけし楊枝」の開発時から受け継がれるものづくりへのロマンが、使い捨てできる「耳かき付き綿棒」や清潔志向の波に乗った「一本包装」等、ロングセラー商品の誕生につながっています。